

テーマ：百貨店販売から見た4月の反動減の動向

～前回並みの反動減。落ち込み幅は想定範囲内～

発表日：2014年5月1日（木）

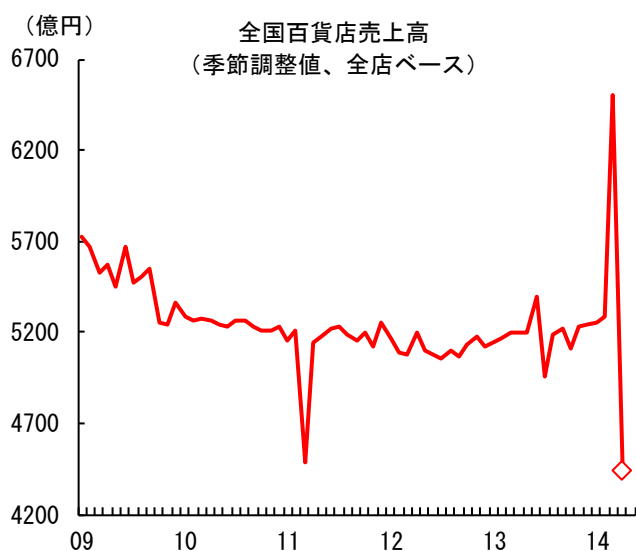
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

5月1日に、主要百貨店5社が4月の売上高（速報）を公表した。3月は5社すべてが前年比で2割以上の増加だったが、4月は一転して5社すべてでマイナスに転じており、駆け込み需要の反動減が顕著に出ている。これを元に4月の全国百貨店売上高（全店ベース）を試算すると前年比▲14.4%となり、3月の同+25.2%から急減する形になる。また、これに季節調整をかけたところ、4月の前月比は▲31.8%と大幅減だ（3月：+23.2%）。もっとも、駆け込みがあれば反動があるのは当然だ。駆け込みとその反動を均すために3、4月平均で見れば前年比+6.7%であり、それまでの平均的な伸びよりも高い。均してみれば悪くない。

また、前回増税時と比較すると、97年3月は前年比+25.5%（97年1-3月期：+10.6%）、4月が▲12.3%だったが、今回は14年3月が前年比+25.2%（14年1-3月期：+10.6%）、4月が▲14.4%程度とみられる。また、季節調整値では、97年3月が前月比+21.8%、4月が▲29.3%だったのに対して、14年3月は前月比+23.2%、4月が▲31.8%程度とみられる。百貨店売上高における今回の駆け込み規模は前回と同程度だったと判断されるが、反動減の大きさも概ね前回並みだったと思われる。企業からのコメントにもある通り、想定範囲内の落ち込みと言ってよいだろう。特段強い数字ではないが、弱いわけでもない。

ちなみに本日公表された乗用車販売台数では、今回の駆け込み規模が前回増税時よりも大きかったにもかかわらず、4月の落ち込み幅は前回よりも小さかった¹。

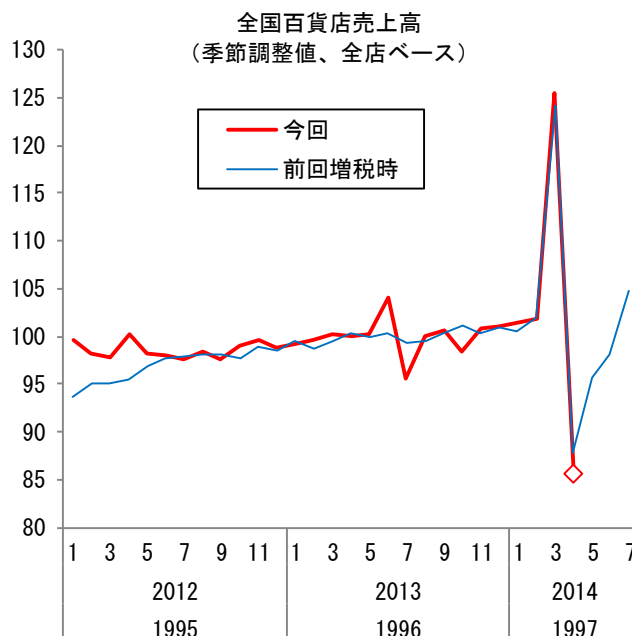
今のところ、自動車は前回対比良好、百貨店は前回並の反動減になっている。自動車と百貨店だけで判断するのは早計だが、少なくとも現時点で企業の想定を大きく上回るような落ち込みはみられていないようだ。4月の滑り出しとしてはまずまずの結果だろう。



（出所）日本百貨店協会「全国百貨店売上高」

（注1）2014年4月は筆者による予測値

（注2）季節調整は筆者



（出所）日本百貨店協会「全国百貨店売上高」

（注）2014年4月の値は筆者試算

（注）季節調整は筆者

（注）2013年平均、1996年平均をそれぞれ100として指数化

¹ 詳しくは5月1日発行 Economic Indicators「新車販売台数」をご参照ください。